

# 袖ヶ浦市郷土博物館の使命

－そではく 30 の展望－

平成 24 年 7 月

袖ヶ浦市郷土博物館

# 袖ヶ浦市郷土博物館の使命—そではく 30 の展望—

## はじめに

袖ヶ浦市郷土博物館（以下「袖博」という）は、30年以上前に構想され、建設された博物館です。歳月を重ねながら教育委員会の方針はもとより、市の総合計画、実施計画等によって、条例で定めた設置目的を果たすべく活動を続けてきました。博物館事業の骨格をなす資料収集・保管・調査研究・展示公開・教育普及に加え、博物館を取り巻く社会情勢を敏感に捉え、博学連携の推進、地域学の提唱と実践を通じ、学校教育、地域連携、市民活動の活性化と支援にも力を入れ、多くの有識者や市民の意見をもって、「市民とともに歩む」博物館像を展望してきました。

今回、「使命」を作成するにあたり、地域博物館の使命を考えた時、職員をはじめ関係者が自覚・共有し、同じ目的に向かい、市民に強く働きかけて結果を出すことが必要となります。そして、袖博が新しい市民活動の場となり、地域に貢献していくことで、「市民と共に」あり、「市民から必要とされる博物館」でなければならないことをより一層認識するために、地域博物館としての戦略を精査し、社会的存在理由や社会貢献を明確にしようとするものがこの「使命」です。

この「使命」に掲げるものは、関係者が常に参照し、博物館活動を推進していく原動力となりうるスローガンの役割を果たしていきます。また、袖ヶ浦市教育振興基本計画である袖ヶ浦市教育ビジョンで示した基本目標・基本理念・施策を実現していくための具体的なアクションプランでもあり、使命を遂行していくための中長期計画でもあります。

そして、袖博の運営状況について評価を行うとともに、市民・その他博物館関係者の理解を深めるために評価基準の選定や目安となる数値指標の設定が「理解しやすく・評価しやすい」ものでなければなりません。さらに、これまでの計画や評点・評価を超えて、社会に理解を求めるとともに市民の知的交流や学習活動を支援するための具体的な基準を作り、それを示すものでなければなりません。

この「使命」の明示と中長期計画の策定は、常にさらなる進化を期す袖博の意思表示であり地域戦略そのものでもあります。このことから、博物館力によるコミュニティーデザインや地域のプライド醸成を強く意識しながら、将来にむけての博物館の動きを縦軸に、市民との関係を横軸にして編み上げていきます。

使命と評価の基準等を明示・公表することによって、日常的に内部評価と外部評価を実施できる状況が整い、具体的判断基準で改善が行われるというサイクルの中で博物館が経営できる状態を目指します。

使命を『そではく 30 の展望』としたのは、開館 30 周年の節目にあたって作成したものであり、「使命」を遂行するための 6 つの取り組みである活動目標を展開する際に目指す 30 の「あるべき姿」と具体的なアクションプランによって構成していることによります。

策定した「使命」については、博物館のもっとも目立つ場所に掲示し、市民・来館者のみなさまの目に触れるようにします。また中長期計画の性格上、5 年程度で見直すことを前提としたいと考えています。

## 1. 基本目標—ひと・みらい・つながる博物館—

袖博は、従来の事業の骨格をなす資料収集・保管・調査研究・展示公開・教育普及などを着実に進めてきました。また、それに加えて早くから博物館を取り巻く社会情勢を敏感に捉え、学校教育、地域連携、市民活動の活性化と支援をし、多くの有識者や市民の意見をもって、「市民とともに歩む」博物館像を展望してきました。

そして、さらに現在までの博物館像を再認識し、社会的存在理由や社会貢献を明確にするために基本理念を基に「使命」を作成し、博物館が「使命」を遂行するための6つの取り組みである活動目標を展開します。

## 2. 基本理念—市民と共に歩み、地域の発展に貢献し、愛される博物館—

袖博が市民活動の場となり、新しい価値観のもとで、より一層「市民と共に」あり、「市民から必要とされる博物館」でなければならないことを認識するために、地域博物館としての戦略を精査し、社会的存在理由や社会貢献を明確にします。

## 3. 使命

袖博は、地域の資（史）料を収集整理し、市民の共有財産として次世代に継承するとともに調査研究を推進し、市民のニーズに応じた常設展示の更新、企画展や特別展を計画的に行います。また、そこで得られた成果を市民・学校・社会教育機関・地域に発信し、連携することで地域文化の向上へつくします。さらに、生涯学習の拠点としての快適な学習環境を整えるため施設管理計画を立てるとともに、バリアフリー・ユニバーサルデザインの理念に基づき、安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、次の4点項目を使命とします。

### (1)地域の文化的な個性を探り、継承し、その発信拠点となります。

地域資（史）料を収集整理し、市民の共有財産として次世代に継承します。また、地域資（史）料の調査研究を推進し、市民に成果を発表します。

### (2)市民の学習の場・知的交流の場となって、地域文化の向上につくします。

市民のニーズに応じた常設展示を更新するとともに、企画展や特別展を計画的に開催します。また、市民の生涯学習の拠点とするとともに、市民が自らの意志で参画できるような展示を企画します。さらに、学校・他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流・連携をより強化し、地域の歴史や文化を深く理解することで、地域文化の向上につくします。

### (3)市民の生涯学習拠点としての安心・安全な施設を提供します。

市民の快適な学習環境を整えるために管理施設の安全状況を把握し、施設の管理計画を立てます。また、バリアフリー・ユニバーサルデザインの理念に基づき、安全・安心で誰にも優しい施設を提供します。

#### **(4)博物館としての独自性を追求します。**

周辺の施設や大学・研究機関等と連携し、袖ヶ浦公園・周辺の遺跡・歴史遺産を活用し、博物館活動と市民活動が融合した魅力的な活動を継続します。

### **4. 活動目標**

#### **(1)地域の資（史）料を守る ー資（史）料の収集と保管ー**

地域資（史）料を継続的に収集整理し、市民の共有財産として適正な環境で保存管理します。また、市史編さん事業で収集・管理してきた史料を適正に保存管理できる収蔵庫を確保します。

#### **(2) 地域を探り、発信する ー調査研究の深化と革新ー**

地域資（史）料の調査研究を推進し、新たな価値を発見、創造し、その研究成果が市民の知的財産として活用されるように公表します。

#### **(3) 学習・知的交流の拠点になるー展示更新と市民参画ー**

市民のニーズに応じた常設展示の更新計画を推進し、資料を身近なものとして捉えることができるとともに、新たな発見や気づきがあるような展示をします。また、企画展や特別展を計画的に開催し、市民の多様な学習意欲に応えるとともに、市民が自らの意志で参画できるような展示を企画します。

#### **(4) 地域のつながりを活かすー地域連携の展開ー**

市民の多様な学習を支援するために調査研究や展示成果を発表し、市民が新たな価値を発見、創造できるような生涯学習の拠点とします。また、小・中・高等学校との連携により多種・多様なプログラムを開発し利用促進することで、子どもたちにより良い教育環境を提供します。

他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流・連携をより強化し、地域の歴史や文化を深く理解する機会を推進します。

#### **(5) 安心・安全な施設にするー改善と維持管理ー**

市民の快適な学習環境を整えるために定期的に施設の安全点検を行うとともに、施設の現状を把握し、メンテナンス・修繕・改修等の計画を立てます。また、バリアフリー・ユニバーサルデザインの理念に基づき、安全・安心で誰にも優しい施設をめざします。

#### **(6)袖博らしさを追求するーマネジメント力の強化ー**

周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場である袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開を図ります。また、博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるために博物館で必要となる新たな研究者や専門家の人材確保の契機にします。